

伝えあい、学びあい、高めあう力の育成 ～学びの充実促進事業における国語科の役割～

兵庫県三田市立富士中学校 岡本 俊明

一 はじめに

本校は平成二二年度より県の「学力向上プロジェクト（国語力向上のための実践研究）」（二二年度より「学びの充実促進事業」に名称変更）の研究指定を受けている。「国語力の向上が学力の向上につながる」という仮説のもと取り組んできた。「国語力」がテーマであるが、研究の中心が国語科ということであり、実践は全ての教科（領域）で行っている。各教科（領域）において、「国語力の向上」の指導につながる部分を明確にし、教科（領域）独自の方法での指導も行っている。同志社大学講師の遠藤瑛子先生のご指導により、各教科とも、基本的な取り組みを共通認識して実践を続けている。

二 「国語力」とは

「国語力」とは単に「国語の学力」ではなく、

各教科に共通して必要な力である。本校では「国語力」を次のように定義した。

- ① 的確に聞き取る力
- ② 自分の考えを的確に伝える能力
- ③ 読解力
- ④ 言語力



※現実社会において、目的に応じたさまざまな課題をみつけ、解決するための基礎となる能力。

- ・ コミュニケーション能力（話し合う、説明する）
- ・ 自ら考え行動する能力（判断力、思考力）

三 国語科の基本的な実践

① 毎時間、学習の主題、到達目標を提示する。

黒板に、その授業の主題（学習内容）と到達目標（なるべく具体的な行動目標となるように）を板書し、生徒に読ませる。これは「学習者」として意識づけすることに役立つている。

また、事前に学習手順を示し、生徒自身の学習進度に応じた取り組みが進められるようにしている。（二二年度 全国学力・学習状況調査の『予習する』のポイントの上昇につながった。）

② 小集団学習（協同学習）の充実

自分の考えや意見をもち、協同学習で発表していくことは、「伝える」ための文章力、表現力を高める。小集団学習（協同学習）を行うとき気をつけることは、「発言力のある生徒の考え」＝「班の考え」にならないようにすることである。そのために、役割分担をしっかりと行うことが大切である。



発表は、教師に
対して行うのでは
なく、あくまでも
教室にいる生徒に
聞こえるようにさ
せる。自分たちが
学ぶ場であるとい
う意識をもたせる
ことを意図する。

- 発表するときの約束
- ① 発表は挙手をして
 - ② 指名されたら「はい」と返事
 - ③ 起立をして
 - ④ クラスのみんなに聞こえるように
 - ⑤ 「～です。」語尾まではっきり
- ※「話し手」はいつも一人だけ

〔小集団学習 役割分担の例〕

F	A
E	B
D	C

A 〓司会 D 〓質問
B 〓記録 E 〓質問
C 〓発表 F 〓盛上げ係

現在、小集団学習（協同学習）は、生活班をそのまま利用しているため一班の人数が六～七人になっているが、一班の人数は、四人程度が適切であると思う。

③ 発表の仕方の徹底

④ 「定期テスト診断直し」

- 定期テスト終了後、テストの振り返りとして、次の観点で書かせている。
- ・ どのように勉強したのか
 - ・ 勉強した結果どうだったか
 - ・ 勉強のやり方は自分に合っていたか
 - ・ これからどのように勉強すればよいと思うか
- 次回テストに向けての決意
- このように、自分を振り返り「考えをまとめる力」は「確かな学力」につながる。回収した「定期テスト診断直し」は、一人一人に、学習方法や注意事項などのアドバイスを記入して返却している。

本年度は、全教科の①単元（教材）名、②単元（教材）の目標、③評価基準、④具体的評価方法をまとめた「シラバス」を作成し、年度初めに全校生に配布、説明をした。国語科では「学習の進め方」として、予習・復習の仕方、ノートのとり方、テストの答案の書き方等についても説明をした。

四 生徒の学習意欲の向上に

特に効果があった指導

- ① 評価規準、具体的評価方法の確認（シラバス、教材ごと）

五 おわりに

② 群読、劇等の発表に対し、観点を明確にした相互評価

③ デイベート活動などを通した討論の学習

④ 「対話劇」などを通して、自分の意思や価値観をきちんと相手に伝える学習

⑤ 小説を題材にしたロールプレイ

⑥ ミニ作文用紙による表現活動

「生徒に求める力」〓「教師に求められる力」という考えのもと、教師の国語力の向上についても取り組みを進め、遠藤先生ご指導の演習による研修会を重ねてきた。具体的な実践内容については紹介できなかったが、この研究を進めるなかで、教師の授業改革、意欲が生徒の学習意欲の向上につながったと思う。研究の成果に関しては、まだまだこれからの検証が必要であるが、本研究における国語科の役割を十分に認識し、授業形態・内容の工夫を率先して行っていきたい。

おかもと としあき 昭和五四年より兵庫県公立中学校に勤務。平成〇年度より三田市立富士中学校勤務。研究主任。三田市「三好達治」研究会会員。